

第7課「霊の結ぶ実は善意」

* 元々人間は、神にかたどって作られた(創世1:27)。人に対する神の愛は善意で満ちていて、その品性は自然と善き事を行なうようになっていた。しかし、人は自らの意思で、愛の源である神から離れてしまった。それ以来、人は悪の傾向を持ちつつ、悲しみが覆った。イエス・キリストは希望を失った人類の唯一の希望となられ、人の心に善意を取り戻すために働かれた。私たちはイエスの模範と御旨を受け入れることにより、恵みによって善意を心に宿すことができるようになった。

1. 「神は善である」事の証明

- **「善意」とは**：「善意」とは正しい態度を示す事と同時に悪を避ける事である。そして積極的で実践的、行動的な意味を持つ。つまり「善意」とは、思いではなく、具体的な行動であり。イエスにおける愛と信仰の結果として私たちの営みに現れるものである。
- **「善」は神の特性**：「善」は神のみが持たれるものであり、絶対的で完全なものである。故に私たちは神の「善」を反影する。「善意」とは神の「善」の反影であり、神から私たちに備えられるものである。そこには、人類を愛し、救い、導く、恵みと憐れみを私たちに与えようとされるイエスの姿を見ることが出来る(出エジプト33:19、詩篇25:8、詩篇86:5、詩篇107:21、ナホム1:7、ローマ8:28)。イエスは神であり、私たちを含む全ての存在の創造主であり、救い主であり、保全者である。また、人となられた神であり、人類の代表者として全てのものを、悪より取り戻され回復させられる。それは全て愛から出る神の完全な「善」によって実現される(ヨハネ14:9、ヘブライ1:2-3)。

2. 罪人の善意

- **罪人は善意を行なえない**：罪人は「善」を行なうことができない。全てにおいて悪意を持ってしまう傾向を持ってしまっている。それは神の「律法」が示している。つまり「律法」(天国の標準、神の価値観)は、私たちの罪を明らかにするので、その高い標準に照らし合わせる時、絶望的な実際の状況が映し出されてしまう。人類が罪を犯すことによって墮落してから、その状態は大きく変化した。私たちは、はっきりと「悪への傾向」(ローマ7:19、8:6-8)と、「善への不可能」(エレミヤ13:23、2:22)を示されている。
- **罪人が善意を示すためには**：しかし、神はそんな私たちの苦しみを放ってはおかれぬ。救いの計画が唯一の希望であるイエス・キリストによってもたらされた。それは「神との関係の回復」(ローマ6:17-22)、「真の自由の回復」(ガラテヤ5:13-16)、「全人的回復」(1テサロニケ5:23)を実現するためである。
- **性善説について**：「性善説」とは、「人間の本性は基本的に『善』である」という考え方であり、儒教における孟子の教えの一つであると言われている。多くの人々がこの考え方を持っている。確かにキリスト者でなくとも、また他の宗教を信奉していなくとも、人間的に善い人は沢山いる事も確かである。しかし、どんなに善良な人の中にも悪も存在するのも確かである。では、聖書はどう教えているだろうか。神によって創造された人類は神に似た品性(肉体的、霊的、知的に完全)を持っていた。ところがサタン誘惑によって悪を選び、墮落した。そして「悪の傾向」を持ち、「善」から最も遠い存在となってしまった。その救いについて聖書は神のみ旨を示している。

3. 神の律法は善意なのか

- **パウロの見解(ローマ7:7-12より)**：律法自体は決して罪ではなく、罪を知るためのものである。そして律法は聖なる者であり正しく善いものである。これがパウロの結論と言える。律法は1)罪の自覚を促す。2)私自身の内に罪を生起させる：罪は巧妙で有力な敵である。罪の自覚が生じ、それをどうにかしたいと思いが起こった時、私たちの心の内が善と悪の戦いの場となる。3)私を死に導く：罪を意識しないときは死の恐れを感じなかった。しかし、律法により罪を自覚した時、死は私たちにとって身近であり、まるで律法が死に導いたように感じるほどに切実な問題である事に気づくことができる。
- **神の律法の重荷**：私たちにとって神の掲げる標準ははるかに高いものである。現実の自分を見つめ直すと、あまりにも大きなギャップに脅威を感じることがある。目指す者にとっては大きな重荷となるかもしれない。しかし神は、その事を十分に知っておられる。私たちに必要なすべてを用意し、与える準備は整っている。
- **善に歩む**：人間の知恵や力では不可能な「善意」を持って生きるために、聖書は「善意」は神が備え、与えて下さるものである事を示している(詩篇51:12)。私たちの心に働きかけて下さる整理の神の導きに耳を傾け、謙遜に受け入れ、行なう事が私たちにできる「善意」となるのではないだろうか(ローマ7:18)。
- **イエスの善意に習う**：私たちは決して行ないによって救われるのではない。しかし、神の哀れみ深い愛によってもたらされた信仰によって神と共に生きる者は、その生き方によって神を示す。神に似た者と変えられてゆく過程(聖化)において「善意」は自ずと現されてゆく。神の愛に触れ、イエスの贖罪野恵を認め受け入れた者は、今までの価値観が大きく変わる。より高い価値観に接した者は、もう過去の思いに満足することはできない。たとえ、辛く厳しい道を歩まなければならぬとも、むしろ将来の大きい目標を見つめているので、乗り越える意思と希望を持って歩み抜くことができる(エフェソ2:10、テトス2:14)。